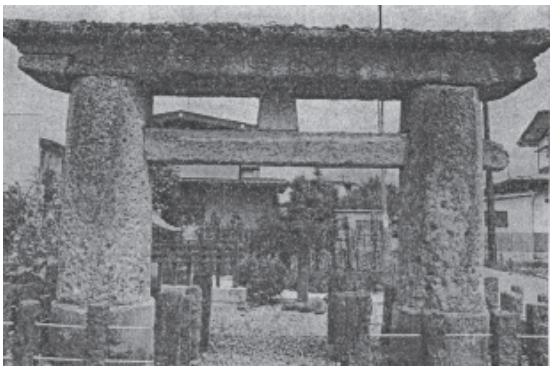
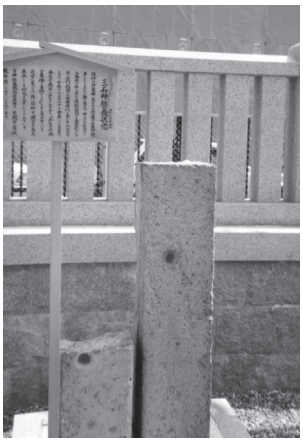


山形市元木の鳥居に穿たれた無数の盃状穴
（国の重要文化財）



当社の盃状穴

盃状穴

三石神社宮司　小林友博

師走の候、氏子崇敬者の皆々様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当神社の「盃状穴」石造物のことに関しては、平成十一年発刊の機関紙『三石さん』創刊号の「社務所・境内紹介」のコーナーで簡単に説明させていただいたが、この度あらため盃状穴について述べさせていただきます。

石造物は永年の風雨の影響により、風化変形してしまうが、神社仏閣墓石などの石造物に、生産・再生・呪信仰により、何事にもくじけない強い意志、何らかの信念で人為的に穿たれた窪み（凹穴）を盃状穴といい、女性のシンボルから由来した生産と再生の表示とみなされており「再生や不滅の象徴」を目的とし、近世に至っては、強い信仰や願望の意思表示と解され、一般的には盃のような窪みが多く見られ、その盃状穴は全国で歴史時代の後代のものが多数発見されているが、一番古いものは縄文時代にまで遡るという。

民族学者の柳田國男（兵庫県福崎町生れ）は、「石に霊魂が宿るという考え方は、まだ人間の信仰が系統立った宗教にならぬ前から、多くの民族に共通して行われていた」と著している。固い石を穿つという強い、篤い信仰心がなければ盃状穴は生まれない。

わが国の盃状穴信仰形態の一例を述べれば、沖縄地方の墓所の壁には、盃状穴と同様の窪みが見られるが、墓所は母胎に帰るという帰元思想があり、再生への表示と考えられている。死者再生信仰の盃状穴の一つであるが、穴が三列に並び穿たれ、穴と穴とが溝状の窪みで連結されている福岡県の三雲遺跡の支石墓の蓋石（弥生前期造）、山口県の神田山古墳の石棺蓋石（古墳時代初頭）、さらに朝鮮半島琴南里一帯、北欧でも類似な盃

発行所
三石神社社務所
神戸市兵庫区
和田宮通3丁目2-51
TEL (078)671-2531
FAX (078)671-7667
E-mail info@mitsuishi.or.jp
URL http://mitsuishi.or.jp

○ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
○お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
○ご神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

状穴が見られる。これは中国の移動生活少数民族であるモン族が移動生活中に北欧の先住民との接触によりその習性を摂取し、朝鮮半島を経て九州と中国地方に伝播したものといわれている。京都東山の六波羅密寺の「阿古屋の塔」の基礎石に、何処からか運び込まれた家形石棺の蓋が使用されているが、その石棺に多数の盃状穴が見られるのは、死者再生信仰の証である。大分県国東半島では、燈明石（別名―拝み石）といわれる石に、道教思想や中国古代の干支信仰思想による盃状穴が見られる。十二支とされる十二個の盃状穴に油を入れ、更に新米をお供えして燃灯祈願すれば病気平癒・諸願が成就するとされる。山形県山形市元木の「御立鳥居」（元木の石鳥居とも・平安時代後期造・国の重文指定）には、石柱全体に数え切れないほどの夥しい盃状穴が穿たれている。これは農民たちがしばしば襲い来る冷害の被害がないよう只管に神に祈った痕跡とされている。兵庫県では赤穂の二の丸城壁や加古川の飯盛山中腹の岩盤には九十個以上の盃状穴が確認され、明石市人丸町の柿本神社の手洗石には原形をとどめないほどの盃状穴が見られる。国宝姫路城の「にの門」・「備前門」付近の石垣には、盃状穴のある多くの石が運び込まれ用いられている。

外国には古くからの盃状穴が発見されている。ヨーロッパでは日本の縄文時代以前に盃状穴を掘る慣習があった。フランスのドルドーニュのラ・フェラシーの三角形墓石面の不規則な盃状窪み群がそれである。また旧石器時代（約一万年前）の遺跡には、女性墓には男性器を、男性墓には女性器を抽象化した盃状穴が見られ、死者の再生を祈願する呪術的行為とされている。同様なものはエジプトのテル・エル・アマールナ遺跡をはじめスカンジナビア半島諸国、シベリア、中国のシンチャンウイグル自治区、朝鮮半島、台湾北部、ハワイ等の広範囲の遺跡で発見されている。

盃状穴には古代の死者再生信仰の他に、現在でも行われている盃状穴に対する信仰がある。スウェーデンでは夜にバター又は獣脂を盃状穴に流し込んで祈れば、その年の豊作と家畜の生産が約束されるとされ、更に獣脂とお供物をして子供の病気平癒や妖精・悪霊祓いの習慣がある。韓国では、男児に恵まれたい女性が陰暦七月の七夕の夜、七つの盃状穴に粟を入れて祈願した後、この粟を紙に包んでチマ（スカート）の下に隠して帰宅すれば男児が授かるという。ハワイ島では、原住民の信仰として、「永生の丘」と呼ぶ岩に新生児誕生のとき盃状穴のような孔をあけ、その子のピコ（臍の緒）を納め石で蓋をする。翌朝そのピコが残っているとその子供に永生（長寿）が約束されるとする。

さて、当社の盃状穴は二十数年前の平成の御修造記念事業参道改修の際、本殿前の旧石段から、直径約六センチ、深さ約五センチの二個が発見された。思うにこのような盃状穴は、古代の墓石（石棺）をはじめ遺跡や古く創建鎮座した神社仏閣等の石造物に多く見られるのは、個人の何事にもくじけない強い意志・願望の表示であるため、その対象物（石造物のある墓石・遺跡・神社仏閣等）の霊力・ご利益効果も絶大であり、かつ人知れず長期に亘って石を穿つという行為制約から、深夜など閑散とした時間帯に執り行える場所などが選定されたものと考えられる。当社の盃状穴は、誰がどのような意志を持って行ったのだろうか。この和田岬今和田新田村は明治以前には耕地の少ない地域であったので、五穀豊穣を祈願したのであろうか。ご祭神の神功皇后の戦勝・長寿・安産等のご利益を授かろうと、明治以降の武運長久などを祈願したのであろうか。

現在では何処かの遺跡や神社仏閣等の石造物に幾ら信仰による行為とは言え、勝手に穴を掘れば「器物損壊罪」の罪に問われる為、盃状穴で古の人々の篤い信仰心をうかがうことが出来る。時代がいくら変遷しようとも人の心に宿る信仰心は変わらない。皆様方も盃状穴を残した三石大神の御稜威を受けられますよう日々ご参拝ご祈願して下さい。

（参考文献　『盃状穴考』一九九〇年刊　慶友社）

平成二十四年十一月

七五三詣祈祷斎行

十一月中、七五三詣祈祷を斎行した。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やオモチャ・風船・おみやげセット等の他にキャラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。

七五三詣写真　四、五〇〇円より
初宮詣　写真　七、〇〇〇円より

特設スタジオでの記念写真

平成二十四年十二月

本殿鈴緒麻房更新奉納

九日、当社を崇敬する三菱重工業㈱神戸造船所・氏子の小松通・前総代の片田氏より、本殿鈴緒の麻房が更新奉納された。

三菱神戸造船所の奉納鈴緒は、二三〇日間完全無災害達成記念御礼として社員一同の名で昭和五十九年一月に奉納され、また、片田氏の奉納鈴緒は、家族一同の家内安全を祈願して平成九年一月に奉納されたものである（但し、平成十五年にも鈴緒改修奉納されている）が、参拝者の打ち鳴らす歳月により、麻房が損傷していたので、この度改修更新奉納された。

新年初詣の方々も真新しい紅白の麻房により、清々しく参拝されたことであろう。

貴社・貴家の益々のご隆昌をご祈念申し上げます。

更新奉納された鈴緒麻房

平成二十五年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭斎行

正月三日、第三十一回目となる「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者二十七名の参列のもと厳かに斎行され、今年一年の各位の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、吟道摂南流総本部婦人部事務局長・師範である金谷摂翠先生による石川丈山（江戸初期の文人）作で、霊峰富士の神秘を述べ、雄大かつ秀麗な山の姿を賞賛した内容の漢詩である「富士山」が吟詠奉納された。続いて、同総本部白鳳吟詠会師範代である辻由摂先生による杉孫七郎（長州萩藩士・子爵）作で、天皇を言祝ぐ内容で、新年の太陽は輝かしくめでたい光を放つが如く、皇位が天地の如く永遠に続き極まることが無いという「元旦」を吟詠奉納された。

更に、金谷・辻両先生の合吟による河野天籟作で、日本風土の美しさ、国の尊さ、あらゆる人々の繁栄を祝う意図から作られたもので、我が日本の内外に素晴らしい瑞気が満ち溢れ大空にまで輝き亘っているという「祝賀の詩」が吟詠奉納された。両先生の朗々とした吟詠に参列者は盛大な拍手を送った。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、

ご神前での合吟詠奉納

鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。

鳥居前での記念写真

初の儀、事業主である㈱岡三地所の岡社長が穿初の儀、施工者である今津・岡特別共同企業体の今津・岡両社長が鍬入れの儀を執り行った後、前記関係者を初め地権者三名・来賓の神戸市都市計画総局・浜山地区まちづくり協議会・吉田町自治会・コンサルタント・販売代理店等の各代表者が玉串奉奠して、平成二十六年二月迄の長期に亘る工事期間の無事故・無災害と住宅の早期完売を併せ祈願した。

平成二十五年四月

工場起工地鎮祭斎行

八日の大安日、当社を崇敬する三菱電機㈱神戸製作所構内で六十三名参列のもと、五〇二棟「技術棟」の新工場建設起工地鎮祭が斎行された。

工場起工地鎮祭斎行

この度の新建物は鉄骨造七階建の技術事務所に用いるもので、当日は設計管理の㈱三菱地所設計の佐藤大阪支店長が苅初の儀、事業主である三菱電機㈱の畑辺社会システム事業副本部長が穿初の儀、施工者である清水建設・東急建設・南海辰村建設共同企業体・㈱弘電社・三菱電機冷熱プラント㈱の代表として清水建設㈱の南常務執行役員が鍬入れの儀を執り行った後、前記関係者を初め各代表者が玉串奉奠して、平成二十六年三月末日迄の長期に亘る工事期間の無事故・無災害を祈願した。

なお、神酒拝戴しての祭典後に、建築主・設計者・施工者の各代表者の挨拶も行われた。

平成二十五年五月

神葬祭奉仕

二日、神道家で当社の崇敬者である兵庫区の積家の神式葬儀を兵庫区新開地の葬儀会場で奉仕した。

当日は、ご子息である喪主の会社関係の供花も供えられる中、八十六歳で帰幽された故人の晩年は介護施設での生活であったが、若き頃より民謡や日本舞踊を習い「神戸まつり」等にも出場した事、三味線を趣味としカラオケも好んでいた事、又、平成九年に先立たれた主人や父母等の年祭も欠かさず執り行い、先祖の慰霊を忠実に行っていた事などを祝詞詞で奏上するに、喪家より、母をよく偲ぶことが出来た厳かな葬式を斎行していただき故人も喜んでいますとのご挨拶を頂いた。

玉串拝礼する喪主

例大祭と神幸式斎行

本年の例大祭は諸般の事情により五月の第二金・土・日に斎行した。

十日金曜午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十一名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納して厳粛に斎行した。後、会館二階にて三菱重工神戸造船所の田中総務課長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。

スタジアム前での記念写真

十一日土曜の午前八時より各地区お旅所の入魂修祓式を斎行したが、生憎雨天となったので総代協議のうえ、各氏子地区子供みこしの巡幸を中止した。

しかし十二日の日曜日は五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく斎行された。午後二時前より兵庫区和田宮通五丁目の大道一輝君（二十五歳）扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、直垂装束姿の総代や、和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学生二十五名による本神輿舁上げ役、化粧をした宮司太刀持役である兵庫区笠松通七丁目の藤原義浩君、更に各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が出発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。

尚、当日は母の日であったので、氏子会からカーネーションが準備され、神幸式参加者また参詣者の母親に配布され、大変好評であった。

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕三地区・猿田彦会員あわせ氏子約六十名の出席による合同直会が開催され、無事神幸式が斎行できた喜びで盛り上がっていた。

平成二十五年六月

氏子崇敬者親旅行

十六日、当社宮司を含め氏子崇敬者三十三名（北部氏子会十七名・南部氏子会五名・東部氏子会六名・猿田彦会二名・崇敬者二名）の参加のもと、四国・徳島県の祖谷かずら橋などを巡る日帰りバス旅行を実施した。先ずうだつの残る脇町を散策し、次に新祖谷温泉ホテルかずら橋にて囲炉裏料理を満喫した後、レトロなボンネットバスに乗車してかずら橋に向かい、高所恐怖症の数名を残し歓声を上げながら渡橋した。次に平家屋敷民族資料館を拝観した後、大歩危峡に移動して、遊覧船にて奇岩の織りなす大歩危峡めぐりを満喫して無事帰神した。

祖谷かずら橋前での記念写真

太陽光発電所竣工・通電式斎行

二十七日、明石市大久保町で太陽光発電所竣工式が斎行された。

事業主である近畿菱重興産㈱が、土地の有効利用のため再生可能エネルギー買取制度を活用して太陽光発電設備を建設し、売電事業を起こさんと、パナソニックES集合住宅エンジニアリング㈱に設計・施工を依頼し、三月からの工事も順調に進み本日の竣工・通電式を迎えた。

この発電所はミオ・ソーラー・大久保と称され、太陽光パネル一、九二四枚を使用して四九〇・六二kwの発電能力があり、二十年間使用される。

式典では、二十二名の参列のもと厳粛に斎行され、事業主の小川取締役社長、設計・施工代表者が玉串拝礼して今後の安全稼働を祈願した後、パワーコンディショナー室前に移動

してテープカットと通電スイッチを入れる通電式も執り行われ、一同拍手を以て竣工を祝した。

玉串拝礼する小川社長

一、九二四枚の太陽光パネル

平成二十五年七月

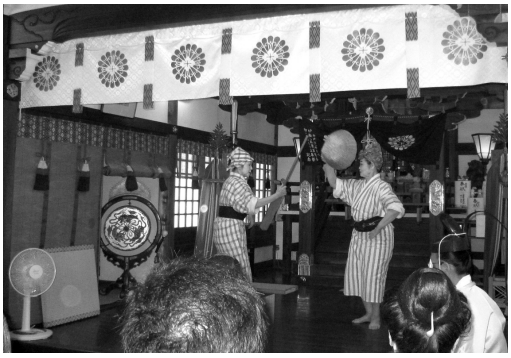
夏越祭（夏祭り）斎行

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞嗚大神の夏越祭を斎行した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、総代・氏子崇敬者十九名の参列のもと、例年通り上野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲（加那ョー、谷茶前）が神前奉納された後、参列者代表各位が玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪くぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左と三度くぐり夏の無病息災を祈願した後、二階にて三菱電機神戸製作所竹本課長の挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、和やかな雰囲気の中、参列者は神職手作りで無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を授与されお開きとした。

茅の輪くぐり神事


神前奉納の琉球舞踊

平成二十五年八月

死亡事故修祓安全祈願祭斎行

十九日、クレーン船船上で、甲板長死亡事故に伴うお祓いと安全祈願祭が斎行された。

八日付けの各社新聞報道もあった、神戸市灘区の摩耶埠頭から南約八〇〇mにある神戸第五防波堤に着岸している大阪市に本社のあるサルベージ会社のクレーン船の甲板長（三十九歳）が、六日午後十時頃海中に転落して行方不明となっていたが、七日の昼前に海中で発見され死亡が確認された。

死亡事故修祓安全祈願祭当日は、摩耶埠頭から舵取船に祭壇等を載せて第五防波堤に着岸しているクレーン船の船上に運び斎場とし、会社の大阪支社長を始め同船と並んで停泊している別のクレーン船の乗組員を含めた三十二人の参列のもと、祝詞奏上・修祓の後に支社長・両船船長らの代表者が慇懃に玉串奉奠して今後の無事故安全繁栄と乗組員の健康を祈願した。

起重機船上での安全祈願祭

平成二十五年九月

新霊舎奉遷慰霊祭斎行

神道家である小野市の高田家では、七月にご主人が七十二歳で帰幽され神葬祭が執り行われた。自宅で斎行する五十日・忌明祭の際、霊位を御霊舎に奉遷するわけであるが、従来より先祖代々の御霊達を御霊舎に祀っていたが、この度正式なる新しい御霊舎を新調し、祖先を敬い亡くなった人々を偲ぶ秋分の日の二十三日、改め新御霊舎への御霊奉遷慰霊祭が厳粛に斎行された。

当日は喪主を始め家族親族等約四十人が参列し、白木の香りも清々しい新御霊舎に先祖の御霊位三体とご主人の御霊位が奉遷鎮座され、祝詞奏上の後、各位が雅楽の音の流れる中、厳かに玉串拝礼して故人を慰霊した。

新御霊舎への奉遷慰霊祭

平成二十五年十月

進水式斎行

二十二日、金川造船㈱で、静岡県伊豆半島沖の初島観光遊覧船などを営業とする、富士急グループである㈱富士急マリンリゾートの旅客船進水式神事が斎行された。

祭壇に「命名書」・「支綱切断用斧」も供えられた式場では、祝詞奏上・清め祓に続き、富士急行㈱の堀内社長が船名「イルドバカンスプレミア」と命名した後、船主・建造会社代表者等が玉串拝礼して無事なる進水を祈願した。

神事の後、社名旗やモール飾りを付けた旅客船は堀内社長の支綱切断により、進水マーチの流れる中、五色の紙吹雪・紙テープ・白鳩・風船も舞い上がり、参列者の喜びの拍手の中無事に進水した。

旅客船「イルドバカンスプレミア」はこれより船内を含む艤装工事が進められる。

神事と進水した旅客船

社殿屋根葺き替え事業・銅板御寄進者ご芳名

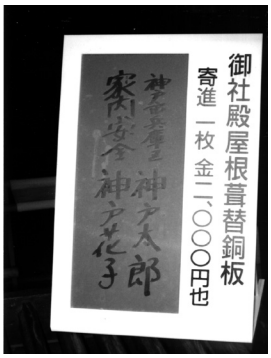
（含　申込・分納・追加、
平成二十四年十一月から
平成二十五年十月末日まで）
順不同・敬称略

趣意とお願い

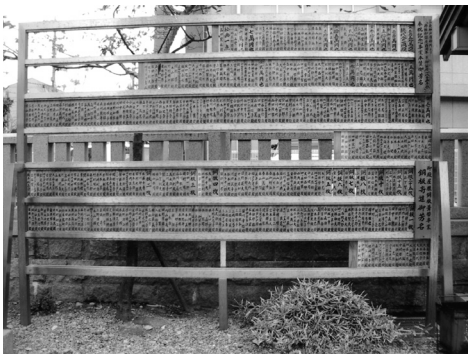
現社殿は昭和三十八年に竣工して、約五十年となります。

銅板の寿命は約五十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々



銅板寄進案内板


境内の奉賛芳名掲示板

様に**銅板寄進（一枚二千円）**をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げたくご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十四年十一月から
平成二十五年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

四枚続きの『神功皇后三韓征伐御調練煉之圖』

当会館二階廊下に掲示している本品は、経年により本来の色が失せている錦絵（多色刷りの浮世絵木版画の総称）で、大きさは縦三六×横七二㎝であるが、三枚続きとなっているので一枚の横は二四㎝である。

作者は二世長谷川貞信（初代小信、文化六〈一八〇九〉～明治十二〈一八七九〉）で、錦屋喜兵衛の板と記され、慶応三（一八六七）年の作品とされている。

内容は画題にあるように、神功皇后三韓征伐御調練の図であるが、調練は兵士を訓練することであるのに、本作品は戦評定のような図柄となっている。神功皇后は赤錦蓋を挿しかけられ、衣冠束帯姿に軍配を右手に持って厚畳の上に座しているが、顔は翳によって隠されている。皇后の前には戦評定の進行役であろう武内宿祢が冠を著け唐花家紋の陣羽織を羽織って座し、その周囲には座した多くの武将が描かれている。陣中には五瓜（織田瓜）家紋の陣幕と、丸に十の字の轡・左三つ巴・一文字に三つ星・蛇の目等の家紋が描かれた幟や陣中纏、天照皇大神の大幟が見え、武者の陣羽織の家紋も七曜・九に違い鷹の羽・丸に十の字の轡・星梅鉢・隅立て四ツ目等が描かれている。

陣中の場所は、背景の山並みから大阪住之江と推測する。その背景には尼カ崎・西宮・住吉・生田・神部・楠塚・湊川・兵庫・和田岬・須广・一の谷の地名と武庫山・甲山・摩耶山・二度山テッカイ・ハチノセの山が明記されているが、何故か兵庫だけは白抜き記名である。

ところで、絵左方の松の木後方の海上にフランス国旗を掲げた大小の船体が描かれているのを不思議に思い、作品を詳しく調べたところ、同作品が早稲田大学図書館に蔵されていて、その作品は四枚続きである。その四枚目の絵には三本マストにフランス国旗を掲げた黒船と、日章旗を掲げた黒船各一艘と、陣中に座している多くの陣羽織武将が描かれている。

四枚続き作品が真贋「神功皇后三韓征伐御調練煉之圖」であって、当社所蔵作品は贋物ではないが、絵が一枚欠落している不備品であった。神功皇后と安土桃山から江戸時代の武将時代考証描写は時代錯誤であるが、神功皇后の三韓征伐、豊臣秀吉の朝鮮侵攻、幕末の幕府を支援するフランス国の黒船等が描かれているのが風刺絵の面白いところである。

シリーズ　書籍に見る三石さん

『生田神社史』

神戸市中央区鎮座の生田神社から、同神社の正史ともいうべき『生田神社史』が、足掛け七年にもおよぶ編纂作業の末の平成十九年四月に刊行された。

B5判、八〇〇頁の大冊に「原始・古代・中世・近世・近代・現代」の各章に区分され、生田神社に関わる様々な歴史・文化が木目細やかに叙述されている。

その第四章近世の第四節「生田神社と兵庫津」の項に「生田神社と和田岬との関係は、往古、神功皇后が三韓征伐凱旋の際に和田岬に上陸し、神トを行ったという伝承にもとづき、神功皇后と深いかかわりのある生田神社が、当時を追懐する絶好の機会とするために、その例祭の重要な神事の一つとして、和田岬に神幸したことから、生じたものと考えられる」の書き出しに始まり、所蔵の『寛文三年卯年（一六六三）八月二十日生田神社和田岬神幸之絵巻』を証として、十七世紀以降の兵庫津に関する様々な史料を傍証としている。

史料の一つである『明治二年兵庫津明細帳』を紹介引用して、江戸時代後半の兵庫津の様子を述べているが、その史料に、「畑中　一　三ツ石　神功皇后三韓ゟ御帰朝之節、差置給ふト申伝」と見える。内容は、当時の三ツ石（三石神社）は、『摂州矢部郡福原庄兵庫津絵図』（元禄九〈一六九六〉年）によると、兵庫津の町に属さない南側の和田岬地域の、兵庫津に出入りする船を監視する「御番所（船見番所）」の外に位置し、周辺は松林に囲まれた田畑が描かれ、その畑の中にあるとされ、その三石は、神功皇后が三韓より帰朝上陸して三ツ石を置かれト占をされた処であると記されている。

更に第六節「生田神社の祭礼」の項の『祀職後神家所蔵旧記』の、尼崎藩に提出した「一ノ祭出頭兵庫津并両浦案文之扣」（嘉永元〈一八四八〉年・後神家文書（上）所収）の「口上」文書には、「兵庫津和田岬三ツ石江（え）神輿神幸御座候処長々中絶に相成」・「岡方廿八町小前未々のもの共年来儘仰にて如以前三ツ石渡御之儀兼て志願に御座候」と記されている。前段の内容は、往古八月二十日の祭礼で兵庫津和田岬の三ツ石まで神輿神幸を行っていたのにもかかわらず、長々中絶となってしまっている。後段は、兵庫津の岡方に属する二十八町の小前の者までが、以前のように和田岬の三ツ石まで神輿を渡御させてほしいと志願をしているというものである。

生田神社史

生田神社の和田岬神幸は現在中断しているが、幕末の弘化二（一八四五）年頃まで斎行されていたようである。既に当社発刊（平成二十一年十二月）の『三石さん』十一号に、平成十三年から復活し斎行されている「西宮神社海上渡御和田岬産宮（三石神社）参り」の記事を掲載しているが、往古、生田神社・西宮神社共に神功皇后ゆかりの和田岬三石神社へ神幸していたことは歴史史料により明らかである。

平成二十六年の神社神事・行事予定

一月　一　日　歳旦祭（初詣）
一月　三　日　氏子崇敬者繁栄祈願祭
（安田・粟飯原先生　民踊奉納）
四月　十三日　氏子会総会
四月　二十日　猿田彦会総会
五月　十六日　例大祭
十七日　地区子供みこし巡幸
十八日　神幸式（おわたり）
六月　八日　氏子崇敬者親睦旅行
（伊勢神宮）
七月　十七日　夏越祭
（琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）
十八日　（茅の輪くぐり）
九月二十三日　西宮神社産宮参り
十月　十九日　秋祭（天照大神祭）
十　一　月中　七五三詣
各月　一日　月次祭

印刷所
(有)前川企画印刷
神戸市兵庫区永沢町二丁目三―十一
TEL（〇七八）五七七―二四八八
FAX（〇七八）五七七―七二二〇